

## 令和4年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価(月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	これからの時代を心豊かにたくましく生きていく力を育むため、主体的に学ぶ意欲を高め、資質・能力を育成する教育課程編成や組織的な授業改善に取り組む。	(1)新カリキュラムの円滑な実施を図るとともに教育課程の点検・改善に取り組む。  (2)主体的・対話的で深い学び及び教科等横断的な学びの推進の視点から授業力向上推進重点校事業の初年度として、様々な観点による研修会を企画し、実践に向けた準備を充実させる。	(1)生徒の進路希望やニーズに対応した教育課程を点検し、見直す。  (2)①授業力向上推進重点校として組織的に取り組む観点項目を明確にした研修会を企画する。アンケートを実施し、PDCAサイクルによるよりよい研修を目指す。  ②ICTの効果的な活用をさらに探究し、教員の意識改善や情報スキルの向上、授業力向上に結び付ける。	(1)①生徒の進路実現に対応した選択科目の再検討と、選択帶の設定ができたか。  ②生徒が様々な学びの場や機会を活用して、自ら学びを深めていくことができたか。  (2)①研修の到達度や満足度を高め、実践に向けた準備ができたか。  ②「教育の情報化の実態等に関する調査」などで「全くできない」回答がゼロになったか。					
2	生徒指導・支援	部活動や行事、日常的な生徒指導を通して、社会規範を身に付け責任感や連帯感を高め、自己実現に向けて努力する姿勢と命を大切にする心を育む。	(1)新型コロナ感染を踏まえながら、生徒が部活動や学校行事に積極的に参加し、他者との関わりの中で自己有用感を持つことができるよう支援する。  (2)広報行事の生徒参加を可能な限り行い、生徒自らの存在感や自己肯定感を高める。	(1)①生徒の安心・安全を担保し、内容の精選を含めた学校行事を運営する。  ②部活動の活性化を図る。  ③交通安全に係る定期的な指導を行う。  ④教育相談窓口を活性化し、迅速に適切な対応がとれる組織を構築し、職員の知識やスキルの向上を図る。  (2)学校説明会等で、生徒に活動の場を提供する。	(2)①振り返りアンケートにおいて、生徒の満足度が高まったか。  ②部活動加入率が前年度より向上したか。  ③交通事故や近隣からの苦情が減少したか  ④SNSでの問題行動が起きないよう研修を実施できたか。また組織的に支援できたか。職員の知識やスキルの向上を図れたか。  (2)関連委員会の活動が前年度よりも多く実施できたか。					
3	進路指導・支援	生徒一人ひとりの進路希望実現に向	(1)生徒の「第1志望宣言」を受けて、進路	(1)社会状況の変化に対応する緻密な情報収	(1)各学年、進路通信を年3回以上発行し、キ					

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月日実施)	総合評価(月日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		け、自らのキャリア発達を意識できる、3年間を見通した進路指導の充実を図る。	希望実現のためのサポートを充実させ、生徒個々の主体的なキャリア意識を形成する。 (2) 3年間を見通した進路支援を、生徒・保護者に対して行い、高校生活の充実を図る。外部人材や情報ツールを活用する機会を増やし、多角的で確実なキャリア支援を行う。	集を行い、様々なツールを用いて、必要な情報を提供し、個々の生徒に対応したきめ細かい進路指導を行う。 (2)①“社会人に学ぶ”や“SDGs”的学びにより、生徒個々のキャリア意識を高める。 ②説明会や外部機関を積極的に活用し、学習意欲の喚起を促す。	キャリア意識を向上させることができたか。 (2)①探究活動を通して進路に係る基本スキルの習得を実感できたか。 ②説明会を2回以上行い円滑な進路活動につなげられたか。生徒の発達段階に応じた外部模試を紹介し、実力向上を図れたか。					
4	地域等との協働	地域に開かれた学校としての取組みをさらに進め、保護者や地域、大学等外部機関、行政機関等との連携を促進し、協働と信頼に根ざした学校づくりを推進する。	(1) 地域と連携・協働する機会を多く持ち、学校の情報を提供するとともに、生徒の自己肯定感と主体性を向上させ、地域貢献に対する意識を高める。 (2) ICT 利活用について、生徒、教職員、保護者が協働して次世代を担う人づくりを実践する。	(1) 地域において生徒が活動表現できる場を確保し、生徒の活動を通して、地域や外部機関との交流を図る (2) 本校のクラウドシステムを用い、諸連絡やアンケートなど様々な場面で保護者にも可能な限り同システムを利活用してもらう。	(1) 感染症対策に対応しつつ、各活動への参加人数が5名以上あったか。 (2) まちcomi、TwitterなどのSNS、Classi、LoiloNote、Googleの用途を明確にし、保護者への連絡方法を周知できたか。					
5	学校管理 学校運営	保護者や周辺地域による、本校の教育活動に対する理解を深化させるとともに、安全・安心・快適な学習環境を整備し、保護者や県民から信頼される学校づくりを確立する。	(1) ICT 利活用を基盤とした指定校事業の遂行を支えるインフラの整備を推進する。 (2) 組織的な防災意識の向上と防災体制の整備を推進する。	(1) 全HR教室でのデバイス活用が問題なく行えるよう整備する。 (2) コロナ禍の中で、実際の災害を想定し防災意識の向上と防災体制を充実させる。	(1) ネット環境の整備ができたか。少なくとも1学年でWi-Fiがスマートに使えるようになったか。 (2) ①日常の中で常に防災意識をもち、定着したか。 ②地域と繋がることで、新規の活動があつたか。					